

Q 精密聴力検査機関での詳しい検査はどんなものですか？

A スクリーニング検査よりももっと詳しい脳波の検査（ABR）と赤ちゃんの音への反応を観察する検査などを行います。ABRでは、赤ちゃんの月齢によっては少量の催眠剤を使用することがありますが、身体への影響や痛みなどはありません。

ことばや聞こえの発達表

出生～3か月

- 突然大きな音がするとびくっとする
- 誰かが話したり、音をたてたりすると目を覚ましたり泣き出したりする
- お母さんの声に気づき、話しかけるとしずかになる

3～6か月

- 興味がある音の方に目を向けたり、ゆっくり探す
- 音に聞き入る様子が見られる
- 音がするとすぐに目を覚ます

6～12か月

- 小さな音にもすぐ気づき、その音のする方を見る。
- 「だめ」や「バイバイ」のことばを理解する

12か月～

- ことばを真似しはじめる
- 「ママ」「ワンワン」などのことばを話しはじめる



新生児聴覚スクリーニング検査後の赤ちゃんと保護者のフォローアップのため、静岡県では新スク情報管理システムを作成しました。



新スク情報管理システムの詳細や、難聴や検査についての情報など、乳幼児聴覚支援センターHPでご覧いただけます



センターHP

静岡県乳幼児聴覚支援センター

〒420-8527

静岡市葵区北安東4丁目27-1

静岡県立総合病院内（内線8161）

TEL:054(247)6111(代表) FAX:054(247)6171

E-mail gh-nyuyoji-asc@i.shizuoka-pho.jp

静岡県の精密聴力検査機関

◎沼津市立病院耳鼻咽喉科

沼津市東椎路字春ノ木550

☎055-924-5100

◎静岡県立総合病院耳鼻咽喉科

静岡市葵区北安東4-27-1

☎054-247-6111

◎聖隷浜松病院耳鼻咽喉科

浜松市中区住吉2-12-12

☎053-474-2222

◎浜松医科大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

浜松市東区半田山1-20-1

☎053-435-2111

生まれたばかりの
赤ちゃんの聞こえを調べます...

新生児聴覚
スクリーニング検査
について



赤ちゃんはお母さんのお腹の中にいるときから音を聞いています



生まれたあともお母さんが語りかけることばや歌、色々なおもちゃの音などを聴いて育っていきます。

生まれつき両耳に難聴がある赤ちゃんは、1,000人に1~2人といわれています。赤ちゃんの難聴に周りの人が気付かずにいると、赤ちゃんはことばを学ぶための大事な経験をつんでいくことができません。

赤ちゃんが聞こえているかどうかは、外見だけではわかりません。ご家族が難聴の兆候に早く気付くことが大切です。



新生児聴覚スクリーニング検査は、赤ちゃんの生まれつきの難聴を早く発見するために考えられた検査です

赤ちゃんが生まれてから退院するまでの間に、授乳後などの赤ちゃんがぐっすり眠っている間に検査します。

検査の所要時間は10分程度で、痛みやお薬の使用などは全くありません。



新生児聴覚スクリーニング検査

Q & A



Q スクリーニング検査を受けるほうがよいのでしょうか？

A

ことばの発達のためには聞こえが大切です。生まれつきの難聴があっても十分な対応をすれば、ことばの発達を促すことができます。

スクリーニング検査は難聴を早くみつけるきっかけになりますが、診断結果ができるまでの間、育児不安になる方もいます。ご心配があれば、地域の保健センター保健師や乳幼児聴覚支援センターにご相談下さい。

県外での里帰り出産などでやむを得ず検査を受けられない場合は事前に、お住まいの市町保健センターへご相談下さい。

Q 検査は費用がかかりますか？

A

静岡県では検査費用の公費助成を行っています。お住まいの市町保健センターで交付される「新生児聴覚スクリーニング検査受診票」を分娩医療機関に御提出ください。

Q スクリーニングで「パス (pass)」と言われました。どのような意味ですか？

A

検査の時点で、その耳の聞こえは正常ということです。ただし、生まれたときには正常な聞こえでも、成長の過程で、中耳炎、おたふく風邪、髄膜炎等にかかって難聴になる場合や、まれに進行する難聴である場合もあります。母子手帳や付表などを参考に、赤ちゃんの聞こえの発達をよく観察しましょう。

Q 「要精査 (refer)」と言われたら、どうすればいいのですか？

A

要精査の結果が、必ずしも難聴を意味しているわけではありません。

検査時に赤ちゃんが動いたり、新生児耳垢(胎脂)があると正しい結果になりません。きちんと確かめるために、産科の紹介状を持って、精密聴力検査機関で検査を受けましょう。